

# 竜王南小学校 学校関係者評価書

平成 29 年 2 月 10 日（金）

竜王南小学校関係者評価委員会作成

**実施日：**平成 29 年 2 月 3 日（金）午後 7 時 30 分～

**会 場：**竜王南小学校会議室

**参加者：**（学校関係者評価委員）

学校評議委員 鶴田重雄 梶原照夫 込山伸一 米山壽浩

P T A 役員 会 長 吉田茂之

副会長 小池 泉 二宮洋信

（学校側） 校 長 遠藤建生

教 頭 田中清登

教務主任 内藤 賢

研究主任 横森陽子

## I 学校側から提案された内容

- （1）教職員の自己評価結果及び改善策
- （2）児童・保護者アンケート結果
- （3）児童アンケートから見える課題

## II 協議された主な内容

- （1）教職員の自己評価結果からの課題
- （2）児童・保護者アンケート結果からの課題
- （3）児童のあいさつ，地域連携について
- （4）その他

## <学校関係者評価書>

### I 全体評価

教職員による自己評価結果は、昨年度と同様に肯定的評価の回答が多いことから目標を達成できていると言えるが、設問によって、肯定的評価で回答している状況が逆に課題である。また、「わからない」とした回答数が多い設問がある。様々な職種の教職員がおり、設問によってやむを得ないものもあるが、「わからない」とした状況を含めずに「肯定的評価 100%」としたことに改善の余地がある。

児童アンケート、保護者アンケートでは、全体的に昨年度から大きな変化はなく肯定的評価が多かったことから概ね目標を達成できていると言えるが、設問に応じて、児童アンケートでD回答をしている児童を把握し、支援していく必要がある。

### II 特 徴

教職員自己評価、児童・保護者アンケートとも昨年度と大きな変化はない。したがって、昨年度課題となった「子供たちが将来の夢や希望を持つこと」や「難しい課題でも子供たちが主体的に取り組むこと」、「教師と子供が触れ合える時間の確保」「家庭での読書時間、学習時間、テレビ・ゲーム時間、睡眠時間の個人差」「地域、家庭との連携」については今年度も継続課題になる。全体的には、教職員、保護者、児童とも肯定的評価（A・B）が多く、教育活動が教職員によって主体的・計画的に進められ、児童・保護者に理解されていることがわかるが、児童アンケートで、「朝食を食べていない」「夢や希望がない」といった項目にD評価の児童数が増えていることが注目すべき点である。また、教職員は地域・家庭との連携についてA評価が高いが、保護者アンケートではA評価が高くないことから、依然として意識の差がみられる。

### Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・地域で見守っていると、帰りのあいさつは元気よくできるが、朝のあいさつに元気がない。登校班長が元気にあいさつできる登校班は、みな元気にあいさつができています。登校班長をはじめ、上級生があいさつをきちんとすることで全体に広がる。大人から先にあいさつをすることも大事で、大人からあいさつすれば、子供たちは必ずあいさつができています。学校でも、あいさつされると気持ちが良いことを再確認するなど、指導の工夫をしていく。
- ・地域・家庭との連携は継続的な課題であり、次期学習指導要領でも求められているところである。連携実践の情報発信をより充実させると共に、カリキュラムマネジメントを行いながら地域・家庭の力を教育課程に取り入れていく。
- ・夏休み中のラジオ体操指導のように、教職員も各地区に参加することで地域・家庭との連携を深めたい。
- ・課題のある子供の指導に、学校・地域ボランティア・保護者でしっかりと見守っていききたい。見守れる人・認めてあげる人がそばにいることが必要である。特別な存在と見ず、どの子も成長できるように皆で対応したい。保護者も含めて、講習会を設定することも検討してはどうか。
- ・児童アンケートは無記名なので、D回答児童を把握するのは難しいが、観察や情報交換を行いながら心配な児童に個別支援を行っていく。また、子供たちが将来の夢や希望を持てるよう、社会的視野が広がるようなキャリア教育を充実させていく。
- ・日本は子供を守らなすぎ。大人が守らなくてはならない。みんなで子供を守っていききたい。
- ・教職員自己評価の結果が、肯定的評価が高すぎて形式的な結果になってしまっているように感じる。特に、福利厚生設問では、教職員が多忙を抱え遅くまで勤務していることを知っているのに、その状況を正確に評価してほしい。教職員が権利をもっと主張すべきで、教職員が満足できることで、より子供たちに充実した指導ができる。
- ・教職員自己評価に肯定的評価が多いのは、集計の仕方に問題があるのではないかと。「分からない」「無効」を除外しているため、よいところだけで集計しているように見えてしまう。やむを得ない設問もあるが、「分からない」と回答している状況を改善しなくてはならない。
- ・実際には指導している（または関わっている）ものの、アンケートに答える時点で該当していないと思いこんでしまったり、設問内容を正確にとらえないで回答してしまったりするケースがある。教職員が正確に回答できるよう、記入時の対策を図る。
- ・昨年度の課題に対して、どのように改善を図ったのかが今回の説明ではわからなかった。校内体制が変わり、PDCAサイクルが確立されないことがあるかもしれないが、昨年度の課題点を大切にしてほしい。
- ・エアコンを教室に設置することになったが、今までに暑さで不調を訴える児童がいたり、学校は避難所としての機能もあつたりするので必要である。

記載責任者（竜王南小学校 学校関係者評価委員） 氏名：吉田茂之 印

